

**残りの者
シャーアル**

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(108号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp
振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子

信仰: みんなのしもべとなりなさい

- この冬は暖冬といわれていたのに、あまり雪の備えのない中国・四国・関西方面で大雪となり、交通への影響や事故も連日報道されました。皆さんのところは大丈夫だったでしょうか。まだ、寒さが続きますので健康が守られるようにお祈りいたします。
- この3月で、私たちの信徒だけの小さな群「石巻祈りの家」も、神の憐れみによって開所から9年間を守って頂きました。それだけでも奇跡ですが、その間**3.11東日本大震災**に遭い、その当初より5年間にわたり国内外の教会、クリスチヤン、支援団体、友人知人に助けられて、主の教会として被災者に寄り添えたことを振り返るときに、神への感謝しかありません。
- 「主に忠実な歩みをしたいと願う兄姉と一緒に、家の教会を始めなさい」という勧めが、神の先見の声でありました。神は、会員一人一人が自ら信仰において、また未曾有の大震災の中で被災者に仕えるという体験を通して、信仰者として生きるとはどういうことかを学ばせていただきました。
- これは、私たちの目標「信仰においてキリストに生き、愛において隣人に生きる」の訓練の期間でしたが、いつも自らの足りなさを覚えながらも、主に頼りながら歩むときに、主の導きと祝福がどんなに大きいことを経験させて下さいました。
- 信仰を与えられてすぐの大学1年の夏休みに、故郷米沢の福田町キリスト教会の清水 寛牧師のもとで、子供キャンプのお手伝いをさせて頂きました。古い民家の2部屋をぶち抜いた薄暗い礼拝堂・・そこで解き明かされる神のみことばに魂が揺さぶられたのが昨日のような気がします。
- 先生家族の部屋はその隣の12畳くらいの部屋で、机1つと本棚1個、そして家族3人の布団が畳んで積み重ねてありました。この映像は、主のためにと何かを選択するときに、今も私の脳裏に鮮明に映し出されます。
- 日本において、高度成長の影響の豊かさや自己実現がもてはやされ、教会も競争するように大きな立派な会堂を建築し、豊かさが神の祝福と見るこの世の価値観が忍び込んできているにある危うさを感じてきました。
- 主が3度目の十字架の予告をされた直後、主と共にあることの熱心さからヤコブとヨハネは御國での栄光の座を主に願いました。これを聞いた他の弟子たちは腹を立てたと聖書は記します（マルコ10/32-45）。
- 主の諭しは、この世の価値観と真逆でした。「あなたの中では・・みなに仕える者となりなりなさい。みんなのしもべとなりなさい。」これが主が私たちのために贖いの代価となってくれた十字架の意味でした。
- 今こそ、私たちはこの主の勧めをこそ自らの信仰の証しとして目指し、この世で生きる者とされたいと願って、10年目の活動に主と共に一步踏み出したいと願っています。

■ 先月の多くの恵みから

- ① 1/25に緊急の検査手術を受けた大平あつ子姉は、神経膠腫と診断され、抗がん剤と放射線を併用して治療に当たることになりました。完治のために是非お祈り支え下さい。
- ② 2/26の礼拝において、ウィクリフ聖書翻訳協会の派遣で識字教育のために東南アジアの国で奉仕されている阿部紀美子姉が、その働きの現状と課題を報告して下さいました。
- ③ 3/12の礼拝、Crash Japanの永井敏夫姉がメッセージの奉仕をしてくださいます。震災後石巻方面においての時は



いつも心にかけて下さって感謝です。

④ 3.11宮城三陸東日本大震災追悼記念会は2/8に最終の準備会が開かれ、3/11午後2時より気仙沼第一聖書バプテスト教会で追悼記念会が、3/12午後3時より石巻釜会館で追悼コンサートが開催されます。主の栄光を現す集会となりますようにお祈りと応援をお願いします。この働きのために、Dr.木下ご夫妻、小林和子姉、神保 幸姉より尊い支援金を捧げて頂きました。

⑤ 2/12の礼拝後の愛餐昼食会に間に合うようにとハイランド・キリスト教会の森 和亮姉が沢山のチョコレートとご自身が作られたトラクトを送って下さいました。出席者のご主人にもバレンタイン・チョコレートとしてお裾分けが出来ました。

⑥ 2/11は古川の故斎藤秀明兄の召天記念日で皓子姉を訪ね、祈りの時を持ち、その後に病床にある大川さんを訪問し、更にいつも祈り支えて下さっている佐藤兄と斎藤明夫先生を訪問できました。

⑦ 2月も継続して皆さまからの尊い献金、お手紙、メール、電話等で励まされ、教会活動と地域教会・支援団体等との協力での活動が支えられたことを感謝します。イザヤ58ネットからは解散にあたり多額の支援金を捧げて下さいました。

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

- ① 大平姉の治療が主の導きの中で健康の回復に繋がるように。
- ② 「3.11東日本大震災追悼記念会（3/11気仙沼・3/12石巻）」の準備のために。地域から真剣に求道する人が起こされますように。
- ③ 4月から10年目を迎える私たちの群が、新たなビジョンが与えられ、救済の心を熱くされ、誠実な歩みが出来ますように。

群の定期集会

・礼拝（毎週日曜日）	10：00-11：30
・祈り会（毎週水曜日）	10：00-11：30
・聖書を読む会（第1火曜日）	10：30-12：00
・ほっと・Time（第3火曜日）	10：30-12：00
・コーラス「花」（第2,4木曜日）	13：30-15：00
・楽しい手芸（第2,4月曜日）	10：00-12：00
・学習支援（地域の子どもの要望に応えて）	

信仰を詠う

3月 祈りの家十年目

苦しみの姉妹に添えぬ小さき者

ひたすら祈る 聖書を前に

ままならぬこころの割けめに灯される

「ただ愛しただけ」と姉妹のことば

そら 宇宙を浮く心地下さる兄姉らに

神様覚え次の動きへと



阿部 八重子

只今会員7名の小さな祈りの家教会は、開所して十年目を迎えます。夫々重荷を抱える会員ですがこれまで多くの方々から尊いご支援を戴きました。私にできること、会員同志心を一つに感謝と希望の祈りをお捧げさせていただくことでしょうか。

2月に来訪されたと先生方・兄姉および教会活動の様子といただいた恵み



アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの意

恵みを数えて感謝し、新たな望みを持って――

「家の教会」10年目に向かって（3）

キリスト教会「石巻祈りの家」代表 阿部 一

震災の支援活動を通して「祈りに答える神」を何度も経験しました。福音伝道教団本庄教会は、地元にある被害を受けた2つの保育所の子ども達180名のためにクリスマスプレゼントを用意して下さりとても感謝しました。それをお渡しして帰りに「何か必要なものが有りませんか？」と尋ねたところベビーベッドとストーブガードが緊急に必要との要請を受けました。帰宅して、届いていたメール開いたら、「阿部さん、ベビーベッドとストーブガードが要りませんか？」とJIFHの支援倉庫でボランティアをされていた鈴木真理さんから。5分前に要請されたまさにそのもの2つが。

「インターネットより、神のネットが速いね」と話して神を賛美した。

新館の婦人から、ご主人が震災後に入院して毎日訪問しなければならないが免許を持たないので婦人用の自転車を是非援助して欲しいとの要請。その頃自転車はなかなか手に入らず、手に入ってもストレートハンドルのもので年をめした婦人には危険でお渡しきなかった。その婦人の欲しい自転車の様々な形式を聞いて、支援活動で夜遅く帰ったらSBSの森谷師から「婦人用の自転車が1台あるが必要な人がいるか」との電話。そのスタイルを聞いたら、要請されたものに近いのでびっくり。それも翌日石巻に支援に来るイザヤ58ネットが運んで下さること。届いて直ぐに、その婦人のもとに持つて行くと、信じられないという顔で「私が求めたものにピッタリ！」と彼女は大感激されていた。

南三陸の「信・望・愛」館の開所式で初めて会ったフィリピンの宣教師が母教会の牧師が急死されて帰国されたと聞いていたのでメールで哀悼の意を伝えた。何回かのメールのやりとりをしていった2月初めに、彼から彼も奉仕しているフィリピンのストリート・チルドレンの教育支援等の働きをしているSeed of Hope Young Lives Foundationで資金不足のため3名の小学校教師の給与が支払えず、子ども達の進級が心配だと連絡が入った。日本の円とフィリピンの貨幣価値から、全

額で15万円あればその問題はクリアできることがわかった。

実は、その時、私はあるものを購入するために小遣いを貯めていて通帳に15万円があった。早速下ろしてきたが、そこから私の心の葛藤が始まった。何年かにわたって購入したいと思って蓄えてきたものだからこれを送ったら、それが入手出来ない。いや、物は後でも購入できるが、子供たちの進級は今でないと取り返しがきかない。一週間ほど悩んだが、神にそっと背中を押されて、決意して送った。実は、これで話が終わったわけではなかったのである。

その直後、高齢になり様々な病の中で幾多の試練を越えてきた知人が天に召された。彼は、元気なときに、私を何で気に入ってくれたのか不明だが、「私がどこに移っても教会籍はお前と一緒にしておけ。葬儀はお前も協力してやつてくれ」と言っていた。ずっとお交わりを許されてきた奥様から葬儀の相談を受け、妻と一緒にその準備をお手伝いした。

葬儀後しばらく過ぎた聖日に、奥様とご家族が訪問下さり一緒に礼拝に参加して下さった。忙しい日曜日の朝である。お礼として頂いた封筒を机の上に置いたままにしていた。妻が「その葬儀で出費した分をいただいて良いか」というので、「机の上に封筒があるから、どうぞ」と答えた。

その夜に一日の整理をし終えて、妻が残したその封筒を開いた。何と15万円が入っていたのである。

その時、私は心の中で「神さま、どうしてご褒美を加えて16万円でないのですか？」と問うていた。神は、「お前がフィリピンの子ども達のために捧げた分を再び手にし、お前が必要としているものも買えるではないか」と答えられた。悔い改めと神の深い配慮への感謝に導かれた。結果的には、その天に召された友人と家族がフィリピンの子ども達の進級を助けた事になる。自分の不信仰を恥じながら、友人の奥様にそのことをお話しして、ご厚意に感謝を述べ、その捧げて下さったものは神がご主人の意志として私を通してキリストにある愛を示すように尊く用いて下さったことを証しした。

こういうことを連續して経験すると最早これらは決して「偶然」と言うことは出来ない。それは神の配慮、「奇跡」である。そして、このような信じられない「奇跡」はまだまだ数多く経験することとなり、話は終わることはない。神は私たちの必要を祈る前にご存じであり、それだからこそ、「先ず、神の義と神の国を求めなさい」と勧めておられるのである。この経験をした者として、10年目へ神への信頼を持って一步を踏み出す。